

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870200629		
法人名	社会福祉法人光朔会		
事業所名	グループホーム オリμπピア灘		
所在地	兵庫県神戸市灘区灘北通3丁目1-15		
自己評価作成日	令和3年1月7日	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和3年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新しいことにチャレンジを続けるオリμπピア灘は、「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念のもと、利用者ひとりひとりの「その人らしさ」を大切に、利用者の可能性を最大限に引き出すケアを行っている。共用型デイサービス、グループホームと住み慣れた地域で継続してケアを受けることができ、地域のニーズに応えている。また、地域の方に楽しんで頂けるコンサート等の開催や、町内会からの依頼でこども神輿の中継所として交流を持ち、地域のお祭りへの参加や地域ケア会議に出席して、認知症ケアの拠点として地域密着サービスを進めている。地域住民や地域の事業所の方へ向けて、認知症の基礎理解を通し、光朔会オリμπピアの理念、活動への思いを伝えている。多くの行事やイベントを行い、スタッフから幅広く自由な意見交換を行い、一層の飛躍を目指している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の認知症ケアの拠点として、幅広い分野での地域交流・地域貢献に継続的に取り組んでいる。現在は活動に制限が多いが、地域ケア会議のネットワーク機能と関係機関との連携を強め、地域共通の課題の解決に向け取り組んでいる。オリμπピアの「理念」「3つの約束」の共有と実践のもと、利用者一人ひとりがその人らしく住み慣れた地域での生活が継続できるよう自立支援に取り組んでいる。特徴である外出支援・地域交流が困難な状況であるが、利用者が主体となってユニット毎に献立・手づくり調理を行い、畑での菜園活動・掃除・洗濯・個別やグループでのレクリエーション・卓球・体操等、日常生活の中で役割や楽しみが感じられるよう支援している。研修体制の整備・人事考課制度・頻回なカンファレンス等、職員の資質向上がサービスの質の向上に繋がるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「高齢になっても、誇りを持ってこれまでどおりの暮らしを安心して続けていただくお手伝い」を理念とし、理念実践のための3つの約束とともに、毎日の朝礼、理事長研修等を通じ、全職員で共有、実践している。	法人共通の「オリンピアの理念」「オリンピアの3つの約束」を明文化し、「オリンピアの思い」の中に地域密着型サービスとしての意義が盛り込まれている。玄関・各ユニットに掲示し、毎日の朝礼で利用者と共に唱和し共有と浸透に努めている。新人研修・理事長研修で学び、随時行われるカンファレンスで理念に立ち戻って話し合い、理念を具体的に理解できるように取り組んでいる。毎年各ユニットで年間ビジョンを策定して半期ごとに振り返りを行い、また、毎月のユニット目標も設定し、理念の実践に向け継続的・計画的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会に加入し、地域の方が気軽に立ち寄れるホームとして関わりを築いている。運営推進会議から繋がった地域のネットワークにより、緊急の受け入れを行うことができた。	自治会に加入し、自治会や民生委員と協力関係を築いている。通常は、散歩・買い物・喫茶など日常的な外出、季節の外出、地域行事等、利用者が地域に出かける機会を数多く設けている。イベント時のボランティア来訪や、保育園児との交流も多い。学生の受け入れ、民生委員や地域住民からの見学・介護相談への対応、子ども神輿・だんじりへの休憩所の提供、災害時の避難受け入れ等、地域貢献に継続して取り組んでいる。現在は、地域交流の多くは休止しているが、地域ケア会議のネットワーク機能をさらに活用し、関係機関との連携を強め、地域共通の課題の解決に向け取り組んでいる。	

グループホーム オリンピア灘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症ケアの拠点として、見学時や電話により相談を受けている。介護サービスの利用に終わるのではなく、ご家庭でのお困りごとに専門職からのアドバイスをを行わせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、写真やビデオ等を利用し、ご利用者の日々の生活やイベントを報告し、改善に向けた話し合いをしている。この会議から築いたネットワークにより、地域住民の緊急時に受け入れを行えた。	各ユニットからの利用者・家族、あんしんすこやかセンター職員・民生委員・大学名誉教授を構成メンバーとし、通常は2ヶ月に1回開催している。資料と「月刊オリンピア灘」を配布し、時にはビデオ等を見ながら、利用者の生活の様子・行事・活動等を報告している。参加者一人ひとりに自己紹介をお願いし、利用者・家族が外部者に意見を表す機会を設けている。また、地域の動向やイベント・行事の情報を、サービスや運営に反映している。開催内容は「月刊オリンピア灘」で紹介すると共に、議事録をホームページで公開している。令和2年度は開催を休止し、構成メンバーと家族に「月刊オリンピア灘」を郵送し利用者の様子・活動等を伝えている。	議事録を郵送し、構成メンバーからの意見・情報・提案等を収集し、次回の議事録で共有してはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍ということもあり、市町村からの情報や注意などを、感染防止に大いに役立てることができた。日々変化する情勢に対して、情報や指示を出してもらい、疑問には相談させていただいている。	通常は、運営推進会議を通してあんしんすこやかセンター職員と定期的に連携を図っている。市からの依頼を受け、民生委員や施設関係者などとの見学を受け入れている。今年度は、地域ケア会議の中であんしんすこやかセンターと協働し、地域の課題解決に向けての取り組みを強化し、緊急事案の受け入れにつなげた事例もある。また、市からメール等で提供されるコロナウイルス関連の最新情報を、事業所内の感染予防対策に活かしている。不明な点や課題があれば、主に電話で市に相談し助言を受けている。	

グループホーム オリンピア灘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践                      代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>オリンピアでは身体拘束は行わないという大前提の元、ホーム長および全職員が共有している。身体拘束廃止委員会を中心に、正しく理解を進め、ご利用者中心の生活を実現している。</p>	<p>法人として行動制限を行わない事を大前提とし、「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束廃止委員会」を3か月に1回開催し、身体拘束事例0件の確認と、コロナ禍での外出制限を含めた適正化について検討している。議事録を各ユニットに配布し、回覧して周知を図っている。「身体拘束防止研修」を事業所内研修とテーマ別研修で、年2回実施している。事業所内研修は複数回に分けて実施し、すべての職員が参加して研修報告書を提出し、周知徹底に努めている。テーマ別研修は、受講者の研修報告書の回覧により伝達研修を行っている。また、ユニットカンファレンスでも、適宜行動制限に関する議題を取り上げ、無意識にスピーチロックにつながるような意識向上に努めている。日中は、玄関・エレベーターの施錠は行っていない。</p>	
7	(6)	<p>○虐待の防止の徹底                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>理事長研修、内部研修を通して、虐待の定義や通報義務、高齢者虐待防止法について学ぶ機会を設けている。認知症についての学びを同時に行い、理念である尊厳ある生活が送れるお手伝いを実践している。</p>	<p>身体拘束廃止と同様に、事業所内研修とテーマ別研修で、「高齢者虐待防止研修」を年2回実施し周知徹底に努めている。随時、開催されるユニットカンファレンスで言葉遣いや対応について具体的に検討し、時には利用者がカンファレンスに参加して意見や感想を発言する機会を設け、職員の気づきや意識向上に取り組んでいる。日頃からホーム長・管理者・ユニットリーダーが相談しやすい関係づくりに配慮し、また、理事長や法人の相談窓口にも直接相談できる環境があり、職員のストレスや不安がケアに影響しないように取り組んでいる。</p>	

グループホーム オリμπピア灘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を実際に利用しているご利用者が数名いらっしゃる。利用者や地域住民から相談があった際に対応できるように行政書士からの研修を受け、適切な支援を行えるようにしている。	権利擁護に関する制度について、管理者が市の研修に参加し伝達研修を行ったり、法人の事務長(行政書士)が研修を行う等、職員が学ぶ機会を設けている。現在は成年後見制度を利用している利用者があり、書類の提供・状況報告・面談時の対応等、協力・支援を行っている。今後も、制度利用の必要性や家族からの相談があれば、事務長が窓口となり、関係機関と連携し支援する仕組みがある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には、十分な時間をとり丁寧な説明を心がけている。また、入居前に見学や相談を行い、ご本人、ご家族が安心してご入居できるように努めている。	入居希望者に見学を勧め、パンフレット・「利用開始にあたって」等の資料に沿って、オリμπピアの理念や方針、利用料金等を詳細に説明している。契約時は契約書・重要事項説明書・各種同意書に沿って管理者が説明を行っている。その後、ユニットリーダーが、生活歴や生活習慣等を聴きながら、入居後の生活について具体的に説明している。利用者・家族からの質問に答え、不安や疑問の解消に努めている。契約内容改定の場合は、変更内容を明記した文書を作成し、文書で同意を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のためご家族の来訪が困難であった。オンライン面会を設置し、ご様子を見ていただく工夫を行った。また、電話などでご家族からのご相談、ご依頼を受け、スタッフと情報共有を行い、反映させた。	通常は、家族の面会が多く、また、家族懇談・懇親会(年1回)、家族を招待するイベントや外出行事、運営推進会議等、生活の様子・行事や活動等を伝え、家族の意見・要望を聴く様々な機会を設けている。現在は、主に電話で利用者の様子を伝え、家族の意見・要望の把握に努めている。毎月の「月刊オリμπピア灘」の発行を継続し、写真で様子を伝えている。把握した要望等は職員間で共有し、個別の支援等に取り入れている。介護計画更新時に、利用者・家族の意見・要望を聴き、介護計画に反映している。現在は、面会についての要望が多いため、ZOOMでオンライン面会ができる環境整備を行っている。	

グループホーム オリンピア灘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望もあり、備品の購入や修繕、シフト調整がされている。ホーム長、管理者がリーダーやスタッフから意見を直に聞きながら運営を実施している。	各ユニットで、随時(月に複数回)カンファレンスを開催し、職員が意見や提案を出し合って検討している。議事録をユニット内で回覧し、利用者のケアや支援方法、業務、接遇面での留意点等について共有している。また、備品の購入・設備の修繕・シフト調整等にも反映している。現在リーダー会議は休止しているが、議事録によりホーム長・管理者も職員の意見・提案を把握している。定期的な人事考課面談、随時の個人面談により、ホーム長・管理者・ユニットリーダーが職員の意見等を個別に聴く機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しており、スタッフごとの目標を設定することで評価をわかりやすくしている。産休、育休を利用中のスタッフに連絡をとり、不安がないように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部で実施されているリーダー育成研修の他、必須研修、普段のカンファレンスにて個々に合わせた指導を行う。認知症実践者研修などの外部研修に参加、初任者研修などのキャリアアップ研修も開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域の小規模多機能サービスの運営推進会議に参加している。サービスごとの連絡会を通して、情報収集、共有を行い、時には入居相談に繋がる事例もある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に提出された情報だけでなく、入居後にご本人からお伺いした希望や意見、困りごとなどを情報共有する。ご本人のお声を聴かせていただくことからケアを開始しており、ご本人との関係を築いている。		

グループホーム オリンピア灘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにご家族が抱えている不安や様々な要望を把握するため、面談や来訪を通じてご家族の思いをしっかりと教えていただく。信頼関係を構築するため、ご家族の思いを受け止めてサービス導入となる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の相談を受ける際、ご本人に必要な支援が他サービスの方が適切であれば連絡調整を行う。サービスを急ぐ方もおり、選択肢を増やして適切なサービスを受けていただくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	オリンピア灘では「介護される人」という括りは存在しておらず、生活の主人公は利用者本人としてお手伝いをさせていただいている。利用者から教えていただくことは多く、お互いに成長する場面が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人がこれまで通りの生活を行うために、ご家族はご本人の一番の代弁者であることを職員間で共有している。ご家族もチームの一員として、気づきを教えてください。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の人生背景を知り、日々のお電話やお手紙を支援する。コロナ禍があり、直接会うことが難しかったが、オンラインを活用して面会が可能な仕組みを実施した。	入居時にセンター方式のアセスメントシート等をもとに、利用者個々の馴染みの人や場所についての情報の把握に努めている。その後も、定期的なアセスメントにより、継続的に取り組んでいる。通常は、家族・友人・教会関係者等の来訪が多く、来訪時にはゆっくり過ごせるように配慮している。日常的な外出や、神社参拝・教会礼拝・自宅への一時帰宅など個別の外出支援により、馴染みの場所との関係継続を支援している。現在は、面会・外出を休止しているため、オンライン面会・電話・手紙・ハガキ等により、馴染みの人との関係が継続できるよう努めている。	

グループホーム オリμπピア灘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係により、居心地の良さに繋がっている。相談は不安ごとだけでなく、利用者同士で企画や献立を考えてくださることがあり、実現に向けて支援させていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去となった後、ご家族から自家栽培のお野菜を届けていただいたり、絵画を寄贈していただくなどした。サポーターズクラブを活用して、様々な情報をお届けしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者からのお声を大切に、思いや希望、意向を把握し、職員間で申し送りノート等に使い共有、日々のケアに活かしている。意思疎通が難しくても、表情や行動から気持ちを汲み取るように努めている。	入居時の面談やセンター方式のアセスメントシート等をもとに、利用者個々の思いや暮らし方の希望の把握に努めている。日常のコミュニケーションで把握した思いや気づいたことは、タブレットの日誌(特記事項)や申し送り表に記録し、職員間での共有を図っている。3ヶ月毎のアセスメント(特に「心身の情報シート」の更新)で把握した内容は、介護計画に反映できるよう取り組んでいる。意思の疎通が困難な場合は、表情や行動から汲みとったり、答えやすい質問方法を工夫する等、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「これまで通りの生活」を大切に、一人ひとりの生活スタイルに沿った支援を行う。センター方式のアセスメントで、ご本人やご家族から生活的やサービス利用の経過を		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の日々の過ごし方を個別に把握し、リスク予測シートやカンファ記録を活用し、情報を可視化して共有している。新しい発見を記録していき、日々のケアに役立っている。		

グループホーム オリμπピア灘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ご本人やご家族の意向、職員の日々の気づきを介護計画に反映させるように、かかりつけ医もチームとなってケアプランカンファレンスを行っている。毎月のモニタリングにより現状に即した介護計画の作成・実践ををしている。	入居時面談とセンター方式のアセスメントシート等をもとに初回の介護計画を作成している。サービスの実施内容は、チェック表と介護記録にタブレット入力している。「活動表」に短期目標毎の実施状況のチェックと特記の記入を行い、計画に沿った実施を記録できる仕組みがある。毎月モニタリングとADLのアセスメントを行い、検討が必要な場合は随時カンファレンスで検討している。定期的な介護計画の見直しは、3ヶ月毎に実施している。見直しの際は、センター方式のシートとADL表で再アセスメントを、サービス計画評価表でモニタリング評価を行い、ケアプランカンファレンスで検討している。議事録に本人・家族の希望、主治医など関係者の意見も記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌の記録をタブレットで行い、必要な情報を見やすくし、記入時間も短縮することでケアの時間を長くとれている。介護計画の評価を行う際、タブレットの使用により複数の目で行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状況やニーズに応じて、話し合いを重ね、柔軟なサービス提供をしている。重度化や看取りに関しても必要な医療との連携を図り、要望に応えられるように尽力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店、理美容等の地域資源を把握し、ご利用者が地域で生活することを支援している。地域のネットワークにより、緊急の受け入れを行うことができ、地域との関係を築いている。		

グループホーム オリμπピア灘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人、ご家族の希望に応じて、かかりつけ医、または協力医療機関に受診できるように支援している。コロナ禍であるが、報告、相談を行い、必要な医療が途切れないように支援している。</p>	<p>入居時に利用者・家族の意向を確認し、かかりつけ医の往診の継続、協力医療機関からの往診等、希望に沿った受診を支援している。協力医療機関から定期的に内科・整形外科、必要時に歯科・皮膚科の往診が受けられる体制がある。往診の結果は、個人別の往診記録・タブレットに記録している。通院での受診が必要な場合は、状況に応じて家族や職員が同行し、家族のみが同行する際は事前に電話等で情報提供している。通院の結果は、通院記録・タブレットに記録している。法人の看護師が定期的に訪問し、健康管理や助言を行い、内容をタブレットの看護記録に記録している。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師は定期的に訪問しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた適切な支援が行える体制を整えている。急な状態変化、感染予防、通院の判断など、多岐にわたって助言を受けている。</p>		
32	(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には必要な情報提供を病院へ行き、ご家族、病院との情報共有を行い、回復の状態を把握している。退院後の生活が入院前から落ちないように、無用な長期入院にならないように連携に努めている。</p>	<p>入院時には、介護サマリーで医療機関に必要な情報を提供している。通常は、入院中に管理者・ユニットリーダー・仲の良い利用者が面会に行き、退院前にはカンファレンスに参加している。現在は、管理者が、家族や医療連携室と電話で情報共有しながら、早期退院に向け支援している。退院時には、看護サマリーの提供を受け、家族の意向も取り入れてカンファレンスを行い、手すりの設置・居室配膳等、退院後の生活を検討している。</p>	

グループホーム オリンピア灘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時契約の際、重度化、終末期に関しての方針を説明、確認している。ご本人、ご家族の希望を第一として、医療機関、看護師との協働により、住み慣れた場所での看取り対応を行っている。	契約時に、「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って、重度化・終末期に向けた事業所の方針や緊急時対応について説明し、同意を得ている。重度化・終末期を迎えた段階でカンファレンスを開き、主治医が家族に説明を行い、家族の意向を確認して支援方法を検討している。看取り介護の実施に際して、議事録の同意欄で家族の同意を得て、看取りの介護計画を作成している。随時ユニットカンファレンスを開催して検討し、職員間で支援方針を共有し、医師・看護師と連携を図りながら、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	平時から看護師や医師に助言をもらい、緊急時の連絡手段を確認している。現場の職員に権限を与え、緊急の際には職員の判断で即座に救急車を呼ぶよう、最良の選択ができるようにしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の対応を研修にて学んでいる。コロナ禍での避難所の扱いなど、地域と相談を行いながら特殊な一年を過ごした。災害発生時には地域との協力により、福祉避難所として受け入れを行う。	例年は、消防避難訓練を、年2回、日中・夜間想定で、消防保守点検業者の協力を得て、利用者参加で実施している。運営推進会議で、災害発生時の地域との協力体制や福祉避難所としての受け入れ等について、話し合う機会も設けている。今年度は、通報訓練のみ実施し、火災報知機の使い方を確認している。各ユニットに保存食を備蓄し、本部でも備蓄を行っている。	ユニット毎に、備蓄リストによる備蓄管理(備蓄品・数量・賞味期限等)を行ってはどうか。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念である「誇りを持った暮らしを続けるお手伝い」を実践すつため、3つのお約束を掲げ、お約束させていただき生活のお手伝いを徹底している。随時、振り返りながら、日々のケアに反映させている。	「理念」「3つの約束」を毎朝利用者と一緒に唱和し、利用者の尊厳の保持・敬語での会話について、周知と実践に取り組んでいる。例年、新人研修・理事長研修(今年度は事業所内研修・テーマ別研修)の中で、パーソンセンタードケアに基づく支援について学ぶ機会を設けている。ユニットカンファレンスで、「敬語・言葉遣いについて」「プライバシーについて」等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について具体的に話し合い、意識向上に努めている。カンファレンスに利用者も参加し、直接意見を聴く機会も設けている。個人情報に関する書類は、各ユニットの鍵付きロッカーで保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「生活の主人公は利用者ご本人」という理念の元、ご利用者が選択、決定していけるように依頼型でお声をかけさせていただき、意思表示が困難な方には、表情や仕草からご意志を汲みとるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアを基板としており、お一人ごとに、その方の普通の生活がある。生活歴を入居時にまとめ、ご本人からのお声をお聴きして、ご本人ごとの生活が実現できる介護計画を作成している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者ご本人が洋服や化粧品を選ばれ、近隣の行きつけの美容室で、ご本人の好まれるヘアスタイルを相談される。その人らしい身だしなみ、おしゃれができるように支援している。		

グループホーム オリμπピア灘

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)		<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>各ユニットごとに献立を変えており、ご利用者の得意料理や嗜好を反映させている。ご利用者が料理をされることを手伝い、職員も一緒に食事をさせていただき、楽しむことのできる環境を作っている。</p>	<p>利用者の嗜好・得意料理・旬の食材等を考慮し、各ユニットで1週間毎に献立表を作成している。法人内の栄養士からのアドバイスも取り入れている。利用者が希望や得意分野を活かし、主体的に献立作り・調理・後片付け等に参加し、楽しみや役割が感じられるよう職員が支援している。職員も一緒に食卓を囲み、家庭的な雰囲気ですぐに食事が楽しめる環境づくりに努めている。主治医と相談のうえ、利用者個々の嚥下状態等に応じた食事形態にも細やかに対応している。通常は、行事・イベントとしての外食、個別やグループでの外食等、外食を楽しむ機会を数多く設けている。現在は外食を休止しているが、行事食や屋上バーベキュー等、利用者が変化を楽しめる機会作りを行っている。</p>	
41			<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスについては、法人内の栄養士からアドバイスを受けている。食事、水分量を把握し、変化があれば職員間で共有している。食事量が低下しつつあるご利用者は、好みや生活習慣を見なおしている。</p>		
42			<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>職員は口腔ケアの重要性を理解しており、一人ひとりの口腔状態や、ご本人の力に応じた口腔ケアを一緒に考えて実施している。往診も可能な歯科医に協力していただき、口腔状態の維持に努めている。</p>		

グループホーム オリμπピア灘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣の把握に努めている。排泄の自立に向け、安易なパッドの使用ではなく、ご本人にあったお声かけをしている。また、本人の羞恥心に注意し、情報の伝達を心がけている。	排泄についての情報をタブレットに入力し、排泄状況やパターンを把握し、日中はトイレでの排泄、排泄の自立に向けて支援している。夜間は安眠にも配慮し、個別に対応している。状態の変化や課題があればユニットカンファレンスを随時開催し、介助方法や排泄用品等を検討し、家族の同意のもと現状に即した支援につなげている。声かけ・誘導時や職員間の報告時等、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量をタブレットにより確認しながら、十分な摂取ができるようお声をかけている。体を動かす時間を作り、排便を促すとともに、看護師、医師への相談を行う。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居前の生活環境に合わせて、ご本人の希望に合わせた入浴を心がけている。ご希望の方は、毎日でも入れ、お風呂が苦手な方もご本人との関係を大切に入浴していただいている。	体調・希望・生活習慣などに応じて、利用者個々の頻度で入浴できるよう支援している。週2回以上の入浴を基本とし、タブレットの入浴表で入浴状況を把握している。利用者毎にさら湯にし、個浴でゆっくり入浴できるように支援している。希望に応じて同性介助で対応し、入浴拒否がある場合は「お風呂が苦手な方について」の議題でカンファレンスを行い個別の配慮を検討している。2人介助・シャワー浴・足浴・清拭等にも個別に対応し、清潔保持に努めている。ゆず湯で、季節を楽しむ機会も設けている。	

グループホーム オリンピア灘

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一律の就寝時間などは設けず、一人ひとりの生活のペースを尊重している。使い慣れた寝具をご持参の方もおり、就寝前にはリラックスしていただけるように配慮している。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬リストを職員が把握できるようにファイリングしている。誤薬などの事故防止に努め、身体状況に変化があった際は医師との情報交換を行う。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人ごとの生活があり、趣味嗜好を入居前からご本人、ご家族からお伺いしている。ご自宅では難しくなっていたことを、ご入居後に再び始められたりしている。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関に鍵をかけることなく、ご本人がお出かけしたい時に外出していただく。馴染みの場所から、行きたかったところ、時には旅行など大きなお出かけを含めて、お一人ごとの支援をしている。	通常は、利用者の希望に沿って積極的に外出支援を行っている。散歩・買い物・喫茶・外食に日常的に外出し、花見等の季節の外出、地域行事への参加、個別の外出・旅行等の機会を設けている。現在は外出は控えているが、近隣の散歩・ベランダでの外気浴等、戸外で気分転換が図れるよう工夫している。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	商店や理美容に出かけた際には、ご本人が支払いが行い、社会参加に繋がることを職員は理解している。ご利用者ごとにご家族とも相談して、方法を決めている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用されているご利用者が増えてきた。話したい時に家族や友人と繋がることができ、年賀状や時候に応じた葉書を投函されている。		

グループホーム オリンピア灘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットを一つの家として捉え、個性を大切に、ご利用者と共に季節の花や写真を飾ったり、生活感や季節感を取り入れている。各階の休憩できる場所を作り、屋上のスペースでは毎年バーベキューを楽しんでいる。	ユニット内にリビング・ダイニング・キッチンがあり、1階にはピアノと卓球台、2・3階には和室スペースがある。各ユニットを一つの家とし、季節の花を飾ったり、絵画や美術品を飾る等、利用者の意見を聴きながら、ユニットの個性を大切に環境づくりを行っている。随所にソファや椅子が配置され、思い思いにくつろぎ落ち着ける場所を設けている。七夕・クリスマス等の行事の際は飾りつけやイベントを行い、季節感を取り入れている。利用者主体に食事作りを行い、洗濯・掃除などの家事参加を支援し、生活感を取り入れている。畑で野菜や花の植栽や収穫を、屋上で外気浴やバーベキューを行い、共用空間として活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットの随所にソファやテーブルセットを設置し、一人でも気の合う人ともでもリラックスして過ごせるように居場所を作っている。ご本人ごとに落ち着く場所があり、そのご意向を職員は理解してお声をかけている。	/	/
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使っていただくように入居時に説明しており、以前からご使用されていた家具や思い出のある物をお持ちいただいている。ご本人にとって大切な仏壇や絵画、写真など、思い思いに飾られている。	居室に、洗面台・クローゼット・ベッドが設置されている。たんす・ソファ・机など使い慣れた家具や、寝具・家族の写真・絵画・仏壇などが持ち込まれ、今までの生活を大切にしながら、居心地良く過ごせる環境づくりに努めている。居室の掃除や衣替えは、利用者を職員が支援して一緒に行い、時には利用者同士が協力して行い、互いに支えあう関係を大切にしている。状況の変化に応じて、手すりの設置やレイアウトの変更などを行い、安全に自立した生活が継続できるよう配慮している。	

グループホーム オリンピア灘

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お料理やお散歩など、リスクに注意しながらチャレンジしていくことによって、ご本人の生活の質を上げることが基本姿勢としている。その中で、その時々々の体調や思いに配慮して、安全への支援を行っている。		